

■2011 年度自己点検・評価 全学的課題について

	評価項目	評価の視点	「改善すべき点」の内容
1	<p>【基準4】 教育内容・方法・成果</p> <p>教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか（シート番号 413）。</p>	<p>周知方法と有効性</p> <p>社会への公表方法</p>	<p>教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針等の目標・方針について、各種媒体で不整合が生じていないか検証し、履修要項にもとづき再編して、明示内容の整合を図ることが望まれる。</p> <p>（補足）教職員はもとより、最も重要な学生への周知内容・方法に齟齬があり、結果、ばらばらに認識されている可能性がある。これは「建学の精神」についても同様のことが言える。</p>
2	<p>【基準4】 教育内容・方法・成果</p> <p>教育目標に沿った成果が上がっているか（シート番号 441）。</p>	<p>学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）</p>	<p>卒業生および就職先の企業に対する調査実施は検討課題であり、全学的な問題として提起する必要がある。</p>
3	<p>【基準4】 教育内容・方法・成果</p> <p>学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか（シート番号 442）。</p>	<p>学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策</p>	<p>大学院の学位審査および修了認定については、研究科により審査基準に差異があるので、より一層の客観性・厳格性の確保に努めるため、検証が必要である。</p>
4	<p>【基準5】 学生の受け入れ</p> <p>適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか（シート番号 503）。</p>	<p>収容定員に対する在籍学生数比率の適切性</p>	<p>研究科においては、入学定員に対する入学者数の割合は「0.86」、収容定員に対する在籍者数の割合は「0.85」となっており、若干未充足の状態である。特に一部の研究科では定員を大きく割り込んだ状態が続いているので、この点の改善策を検討する必要がある。</p>

	評価項目	評価の視点	「改善すべき点」の内容
5	<p>【基準6】 学生支援</p> <p>学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか（シート番号601）。</p>	<p>学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する方針の明確化</p>	<p><u>全学的な修学支援の方針</u>を定めることが必要である。また、各学部の方針を集約し、齟齬がないか検証する仕組みも必要と思われる。</p> <p>（補足）学生支援の方針については、今後、認証評価受審の際に、方針に照らしての自己点検・評価を進める必要があることから、各組織における方針を確認し、明確化されていない場合は策定をする必要がある。</p>
6	<p>【基準7】 教育研究等環境</p> <p>教育研究環境の整備に関する方針を明確に定めているか（シート番号701）。</p>	<p>学生の学習および教員による教育研究環境整備に関する方針の明確化</p>	<p>施設整備計画は具体的な行動計画と思われるため、どのようなコンセプトに基づきキャンパスを形成すべきかという、<u>上位の方針（教育研究環境整備に関する方針）を明確化</u>願いたい。</p> <p>（補足）今後、認証評価受審の際に、方針に照らしての自己点検・評価を進める必要があることから、各組織における方針を確認し、明確化されていない場合は策定をする必要がある。</p>